



第1902回 例会

2013-14年度RI会長:ロン D・バートン
 第2640地区ガバナー: 久保 治雄
 創立:昭和49年5月15日
 会長:竹村 英一
 幹事:後藤 信博
 会報:谷本 司



VOL40 No. 14

2013年10月16日(水)

事務所:田辺市下屋敷町81-10
 きのくに信用金庫田辺支店3F
 Tel 0739-24-6427 Fax 0739-34-5008
 E-mail t-eastro@mb.aikis.or.jp
 例会:毎週水曜日 12:30~

司会者 竹村 英一 会長

唱歌

”村まつり”

野村 憲司君



出席報告

会員数	義務免除	欠席者数	本日出席率
50名	2名	7名	85.42%
10月2日修正出席率 97.87%			

ニコニコ箱

(敬称略)

- ◇上原先生、卓話頑張って下さい。
橋本、平野、本田、泉、片井、小山、丸山(博)、森本、野村、小倉、岡本、沖、佐田、坂本、武田、竹村、谷峯、谷本、谷中、内芝、早稲田、山本、吉田、吉本
- ◇御清聴お願いします。尚、眠たい人はどうぞご勝手に。 上原
- ◇10月は職業奉仕月間です。行事の一環として先週は田辺商工会議所への移動例会に参加有難う。大変勉強になりました。 木村
- ◇歯科診療のため来週から3週連続休みます。 岩崎
- ◇今日は娘の誕生日です。(28歳) 愛須
- ◇谷中委員長、昨夜はご馳走様でした。今日もご馳走になります。 後藤
- ◇無事帰還しました。 中嶋
- ◇本人誕生日 石井、畔田
- ◇お花頂きます。 丸山(勇)

会長報告

- 本日のプログラムは内卓として、上原俊宏君による会員卓話です。
後ほど宜しくお願い致します。
- 本日例会後、10月5日(土)に開催されました「地区正常化を求める会」の報告会を致します。お忙しいなかとは存じますが、お残りいただきますよう、よろしくお願い致します。

幹事報告

■例会日時変更

◎那智勝浦RC

10月17日(木)→ 10月17日(木)12:30~

場所:「大門坂」石碑前
(石碑周辺の清掃のため)

10月24日(木)→ 10月26日(土)18:30~

場所:割烹「新藤」
(堺市:親睦会のため)

■メイクアップ

◎10月10日(木)和歌山東RC

坂本正人君

(米山記念奨学生の卓話に同行)

■回覧

◎週報「田辺はまゆうRC」

◎「JCニュース9月号」「シーカ102号」

◎南方熊楠顕彰会より「熊楠ワークス第42号」

「近畿自然歩道『稲葉根王子を訪ねるみち』ウォーキングイベント」のご案内

「てくてく田辺 街なかスタンプラリー」

◎やおき後援会より「ご入会(ご更新)の御礼」

◎「ハイライトよねやま163号」

◎「英語版ロータリアン10月号」

◎ガバナー事務所より

「地区大会選挙人」「お知らせ10月11日」

◎泉州KUMATORIロータリーEクラブより

「2012~2013年度決算書類開示請求2」

◎第2640地区正常化を求める会より

「ご連絡(申し入れ書)」

「ご連絡(届出済み会長宛て)」

◎和歌山城南RCより

「ご連絡（地区大会 信任状について）」

「ご連絡（地区賦課金について）」

「ご連絡（施行予算について）」

「ご連絡（公開質問状について）」

「ご連絡（10月11日付文書について）」

委員会報告

40周年委員会委員長 谷中 順次郎

40周年事業委員会、式典委員会を開催します。

18:00、一吉にて開催します。担当者の方は宜しくお願いします

社会奉仕委員会 吉田 和枝

暴力追放パレードへの参加宜しくお願いします。

10月22日15:50開始です。

米山地区委員 坂本 正人

米山奨学生の熊野古道道普請を行い、その後ハナヨにて歓迎会を行います。11月14日です。宜しくお願いします。

しかしながら空海24歳から、31歳に第十六次遣唐使船に乗るまでの7年間の行動・消息は幻とされ、空海の事跡は金石文に見当たらず、本山もあえて探求しないという姿勢をとっていると聞く。

推定の定説の中で、近畿近縁から四国、果ては広く全国的に修行僧として修験者のように山水を跋扈していた鳳雛の時期ともされる。この折、空海は虚空蔵求聞持法を会得しそれを何度も修禅したらしい。今回は空海が大龍山、室戸岬、石鎚の峯等の修行道場として山岳の地、さらには辺境にある高野山を選んだ訳などを考慮しながら、いくつかの事柄に関して愚見を述べてみたい。

空海に関する二三の見解



本日のプログラム

空海に関する二三の見解

田辺東RC 上原俊宏



「花火を見る会」

10月5日(土)

栗山会員別邸にて



神亀5年(774年)6月15日、インドから中国への渡来僧であり密教伝持の八祖の一人である不空三藏の亡くなった日に、東の日出る国の讃岐のやや西寄りの地の善通寺で空海は生まれた。父は蝦夷の末裔とされる佐伯氏の出であり、当時は讃岐地方で「直」の階級を得る高級役人であった。兄たち二人の消息は不明であるが家督を継ぐためにそれなりの環境・進路に於いて学習をしたことであろう。しかし三男である空海は幼少時から知能明晰であったらしい。父の佐伯直田公は空海に大きな期待をかけ幼い頃から彼に英才教育をした事であろう。彼の中央での栄達を確信したからである。

幼名「真魚」と呼ばれた空海の母である玉寄姫の兄は阿刀大足とよばれ、伊予親王(五十代桓武天皇の三男であったが藤原一族の謀略により服毒自殺をした:伊予親王の変;807年)の侍講(個人教授)を努めたこともあるという学者である。中央政界で力もあり儒教関連の博識者であった阿刀大足に幼少時から学問を広く学んだ空海が、讃岐の豪族達の支援も得て留学生として唐の青龍寺の恵果阿闍梨から両部密教を東方の我が国に伝えた事は広く知られている。

